

Kins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】 McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

### 編集後記

今年の新年はある理由から、恒例の来客をお断りしなければならぬ羽目になってしまった。わが家の長い歴史の中でこの様なことはまさに破天荒のこと、まことに申し訳ない気持ちで一杯であったが、そのお陰といつてはなんだが、ゆつたりした気分が新年の休暇を過ごすことができた。

そのつれづれのひととき、当時の日本医史学会の機関誌であった『中外医事新報』の複製版をひらいてみた。学殖ゆたかな諸先輩が、幅広い分野にわたって内容の充実した論文を發表している様子には尊敬の念を禁じえないが、あらためてわたくしが注目したのは例会が毎月開催されていることであり、それが毎月発刊されている機関誌にきちつと収載されていることであった。

例会記事を機関誌が収録するのは当たり前といえればそれまでであろうが、さらにつつこんで見ると、例会で口頭発表された講演内容が、例会抄録とは別に原著や研究ノートとなつて——もつともこのころは、きっちり分類されていたわけではないが——、早いときには同じ月に、おそいときでも数カ月のタイムラグで誌上をかざっている。

長い年月をかけて準備をかかされた折角の研究を、口頭発表だけで眠らせておいたのでは、いかにも斯学にとつておきな損失といわざるをえない。ぜひペーパーとして残しておきたいことをあらためてお願いしたい。それによつて後学が裨益されるところ大であることは、いまさら申すまでもない。

なお本号「シーボルト生誕二〇〇年記念国際医学シンポジウム」の記事は、会員ではないにもかかわらずとくに長滝重信氏にお願いしたことを付記して、あらためて感謝の意を表す。  
(深瀬泰旦)